

日本学術会議 健康・生活科学委員会 生活科学分科会 主催

共催 生活科学系コンソーシアム

2008年7月5日(土) 13:00~17:00

シンポジウム

「子どもたちに生活科学を

—家庭科の魅力と可能性—」

資料

## 趣旨

生活科学は、人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から研究し、生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学である（日本学術会議健康・生活科学委員会、生活科学分科会設置目的より）。急激に変化する社会の中で、子どもたちが自立して生きていくためには、生活についての科学的知識が不可欠である。今般の教育基本法の改正では「生命を尊び」「伝統と文化を尊重」することが提起されている。家庭科ではこれまで、人の一生と家族・家庭、子どもの発達と保育・福祉、衣食住、消費生活などの内容で、生涯発達を通じた生命尊重、生活の科学と文化について学習内容を提示してきた。学習内容の学術的基盤となる生活科学には、現代社会の変化を踏まえて、その最先端の内容を、確実に家庭科に反映することが要請されている。

本シンポジウムでは、子どもの発達に応じた家庭科として、生活科学の内容を、どのように編成すれば子どもたちの生きる力を育成できるのか、生活科学諸関連学会の叢知を結集して、家庭科の魅力と可能性について考えたい。

日時：2008年7月5日（土）13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂

## 内容

	司会	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員
13:00～13:15	開会挨拶・趣旨説明	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員
13:15～13:45	基調講演「今の家庭科、めざす家庭科」	望月昌代 氏（文部科学省教科課程調査官）			
13:45～16:55	シンポジウム				
報告①	13:45～14:15	「家庭生活と家族」	福井大学	荒井紀子	氏
②	14:15～14:45	「食生活」	千葉大学	石井克枝	氏
③	14:45～15:15	「衣生活」	実践女子大学	高部啓子	氏
④	15:15～15:45	「消費生活」	横浜国立大学	西村隆男	氏
休憩	15:45～15:55				
討論	15:55～16:55				
16:55～17:00	閉会挨拶	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員	生活科学分科会委員

# 今の家庭科、めざす家庭科

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

望月 昌代

## 1 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)におけるキーワード →生きる力の基本理念は変わらない

### ① 知識基盤社会(knowledgebasedsociety)

「課題を見出し解決する力」「知識・技能の更新のための生涯にわたる学習」「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など変化に対応するための能力が求められる。

### ② 活用する力

多様な学習場面で子どもの能力開発の基礎となる PISA 調査が重視したキーコンピテンシー(主要能力)を育てていく必要があり、各教科等の指導の中で基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科等での知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

### ③ 言語活動の充実

国語科で培った言語能力を各教科等の学習活動において十分に活用し、生徒の言語能力(特に思考力・判断力・表現力など)を高めるような指導を充実させる。

### ④ 体験活動の充実

体験活動は論理的な思考力の基礎を形成させるものである。体験させることによって、生徒の能力や世界を高めるような内容を構築する必要がある。

## 2 今後の家庭科の方向性

### 【基本方針】

自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

### ① 小・中学校の内容の体系化

<b>小学校</b>	<b>中学校</b>
A 家庭生活と家族	A 家族・家庭と子どもの成長
B 日常の食事と調理の基礎	B 食生活と自立
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立
D 身近な消費生活と環境	D 身近な消費生活と環境

<b>高等学校</b>	人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえる → 生活にかかわる事象を科学的に理解する 家庭や地域の生活を創造する能力と主体的に実践する態度を育てる
-------------	---

### ② 社会の変化への対応

ア 家族・家庭に関する教育の充実 ←学校教育法の改正、少子高齢化の進展

イ 食育の推進

ウ 社会において主体的に生きる消費者を育む視点の重視

エ 持続可能な社会の構築の観点から、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立

### ③ 時間軸(小学校→自分の成長 中学校→生活と自立を考えこれからの生活を展望、高等学校→生涯を見通す)と空間軸(自己と家庭、家庭と社会とのつながりを考える)とを相互に関連させる内容構成

### ④ 言語活動との関係を重視→指導方法の工夫

実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の重視

# 家庭生活と家族

福井大学 荒井紀子

## 1 はじめに

「家庭生活と家族」に関わる生活科学の内容（家族関係学、生活経営学、家族社会学等）を、子どもの発達に応じてどのように編成すれば子どもの生きる力を育成できるのか、関連諸学会の叡智を結集して家庭科の魅力と可能性について考える。

## 2 生活を科学する視点からみた家族関係学、生活経営学、家族社会学の果たす役割

---

現代社会の家庭生活や家族に関わる生活問題をできる限り多角的に把握し、問題の背景や要因を分析する。また、問題をクリティカルに検討し、安全・安心、人権や平等、ウェルビーイングの視点からその改善や解決にむけて提言する。

---

○ 近年の家族をめぐる議論や研究の例

- ・ 格差の拡大に伴う経済の階層化とそのことの家族・家庭生活への影響（結婚、子育て）
- ・ ワーク・ライフ・バランスを可能にする家族のパートナーシップ、企業、行政の施策
- ・ 父親の育児遂行をめぐる現状や課題、就業女性の出生意欲、就労継続を巡る問題
- ・ 高齢期のケアをめぐる自助、互助の問題と家族のあり方等

## 3 家庭科における「家庭生活と家族」に関わる学習の位置づけ

- (1) 「家庭生活や家族の規範を理解する学習」から、「家族を取り巻く現状を理解し、自らの生まれた家族を見つめ、将来の生む家族について考える学習」へ
- (2) 「家庭生活における役割遂行の学習」から「男女の平等なパートナーシップを実践する学習」へ
- (3) 家庭生活と家族を生涯を通してみつめる視点、社会の制度やしぐみが個人や家族、家庭生活に与える影響とその相互作用について考える視点の重視

## 4 これからの家庭生活・家族の学習の視点と生徒につけたい力

---

家族関係学、生活経営学の他、福祉、保育学等の関係諸科学の知見を学びながら、それらを鵜呑みにするのではなく、自分自身の生活の場で検証し、考え、活用する力を育てる。

---

- ・ 生徒に、自らが人生をつくる主体としての自覚を育てる。そのうえで、家族や家庭、社会の問題に関心を持ち、受身のままあきらめるのではなく、現状をクリティカルに分析し、問題を改善、解決する力を育てる
- ・ 人を支え、支え合う、自助（自立）と互助（共生）への理解と行動力を育む。
- ・ 衣・食・住、家族、生活経営など領域ごとの学習ではなく、全領域を貫いて個人や家族が家庭生活を主体的に営む視点からの学習が必要。この領域を貫くキーワードの例としては、「自立」「環境」「消費」「共生」「ジェンダー」「福祉」などが考えられる。

## 子どもたちに生活科学を —家庭科の魅力と可能性—

### 「家庭生活と家族」

福井大学  
荒井 紀子

### 報告で明らかにしたいこと

- 「家庭生活と家族」に関わる生活科学の内容を、子どもの発達に応じてどのように編成すれば子どもの生きる力を育成できるのか、関連諸学会の叡智を結集して家庭科の魅力と可能性について考える。

### 報告の構成について

- 生活科学系の諸科学
- 生活科学研究とは
- 生活関連諸科学と家庭科教育との関係
- 家庭科の「家庭生活と家族」にかかわる諸科学のめざすもの
- 家庭科における「家庭生活と家族」の位置づけ
- これからの家庭生活・家族の学習の視点と生徒につけたい力

### 生活科学系の諸科学 —

生活科学系コンソーシアムの学会構成から

- 日本家政学会
- 日本家庭科教育学会
- 日本生活学会
- 日本栄養・食料学会
- 日本食品衛生学会
- 日本食生活学会
- 日本調理科学会
- 国際服飾学会
- 日本衣服学会
- 日本消費者教育学会

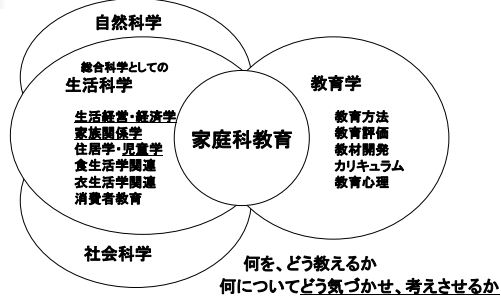
### 家政学会の構成部会

■ 家政学原論	1	部会
■ 生活経営・家庭経済	2	
■ 家族関係	1	
■ 住居・児童	2	
■ 家政教育	1	
■ 食生活関連	2	
■ 衣生活関連	8	

### 生活科学研究とは —

- 人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から研究し、生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学

### 生活科学関連諸科学と家庭科との関係



### 家庭科の「家庭生活と家族」にかかわる諸科学のめざすもの

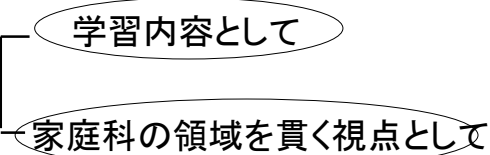
- 現代社会の家庭生活や家族にかかわる生活問題を出来る限り多角的に把握し、問題の背景や要因を分析する。また、問題をクリティカルに検討し、安全・安心、人権や平等、ウェルビーイングの視点からその改善や解決に向けて提言する



(家族関係学、生活経営学他)

家庭科教育

### 家庭科における「家庭生活と家族」の位置づけ -2つの性格



### 家庭科における「家庭生活と家族」学習内容としての位置づけ-1

#### 経年的にみた学習内容の広がりや学習量の増加

#### 例 1989年 学習指導要領

- :高校家庭科に高齢者の項目が入る
- :中学技術・家庭に「家庭生活」の項目が入る

#### 1998-1999年 学習指導要領

- :高校家庭科の高齢者、保育学習に福祉の視点が入る
- :中学技術・家庭「家族」の学習が増える

背景 <高齢社会の進行および少子化現象への対応の必要性>

### 「家庭生活と家族」学習内容としての位置づけ-2

#### 家庭生活における男女の平等なパートナーシップの視点の重視

- 例 1998-1999 学習指導要領や教科書:
- ・男女協働の子育てや性別役割分業は正の視点

背景 ・男女共同参画社会基本法の成立、  
・国民の役割分業意識の変化  
2004年内閣府世論調査:  
役割分業否定派が肯定派を上回る

### 「家庭生活と家族」学習内容としての位置づけ-3

#### 生涯を見通して、家庭生活や家族とそれを取り巻く社会をみる「共生」視点の重視

(例)

- 1999年 家庭科高校学習指導要領  
保育、高齢者の学習に福祉の視点が入る  
「乳幼児の発達と保育・福祉」  
「高齢者の生活と福祉」

\* 子育て期、高齢期のほか、生涯を通じて、家庭生活の困難に対し、家族だけでなく、社会の構成員全体でみていく視点

## 「家庭生活と家族」学習内容としての位置づけ まとめ

- (1) 「家庭生活や家族の規範を理解する学習」から、「家族を取り巻く現状を理解し、自らの生まれた家族を見つめ、将来自分のつくる家族について考える学習」へ
- (2) 「家庭生活における役割遂行の学習」から「男女の平等なパートナーシップを実践する学習」へ
- (3) 家庭生活と家族を生涯を通してみつめる視点、社会の制度やしぐみが個人や家族、家庭生活に与える影響とその相互作用について考える視点への着目

## 「家庭生活と家族」 家庭科の領域を貫く視点としての位置づけ-1

- 学習指導要領には明快な記述は無い
    - ・領域ごとに学習内容が区切られており、領域間の関係はみえにくい
    - ・強いて言えば、全領域を通しての問題解決学習の奨励がこれに当たる
- <学習指導要領では全教科とも、教科を構造的に図示する方法がとられていない>



米国のナショナルスタンダードや各州のカリキュラム

## 例 アメリカのナショナル・スタンダード(1998~)

### ■ 17の学習領域

家族とキャリア・コミュニティ、消費者と家族のリソース、消費者サービス、乳幼児・教育・サービス、設備の管理とメンテナンス、家族、家族とコミュニティサービス、食品の製造、食品と栄養、観光・リクリエーション、住居・インテリア、人間の成長・発達、人間関係、栄養とウェルネス、親になること、織物と服装)

#### 各学習領域

- 全体目標、内容目標
- 各領域全てを貫く指標として、

- ・能力
- ・アカデミックな習熟度(言語力、数学、科学)
- ・学習プロセスで探究させたい問い  
(思考、コミュニケーション、リーダーシップ、マネジメント)

## 「家庭生活と家族」 家庭科の領域を貫く視点としての位置づけ-2

- 衣・食・住、家族、生活経営など領域ごとの学習のまとめりだけでなく、全領域を貫いて個人や家族が家庭生活を主体的に営む視点からの指標や学習の指針が必要。
  - 領域を貫く指標をどう設定するか
    - 米国のような「能力」や学習プロセスで探究したい「問い」を設ける方法ほか、家庭生活の全ての領域を貫いて探究させたいキーワードを設定する方法もある
- (例:「自立」「環境」「消費」「共生」「ジェンダー」「福祉」等)

## 「家庭生活と家族」家庭科の領域を貫く視点としての位置づけ-3 全領域を貫いて家庭生活を主体的に営む視点

### 学習課題・領域と学習題材(内容)

領域	学習課題	A	B	C	D
個人・家族・福祉の発達	人の一生と発達	健康で文化的な生活を営む	環境・資源・消費者問題	ジェンダー・福祉・人権	生活の文化
	個人・家族と社会				
	子どもの成長・保育				
	高齢者の福祉				
生活資源の活用	食生活	生活を営む	生活にかかわる	平等な関係を築き共に生きる	生活を楽しま味わい創る
	住生活				
	衣生活				
	生活の経営				

\* 出典  
北陸カリキュラム「生活主体を育む」ドメス出版

## これからの家庭生活・家族の学習の視点と生徒につけたい力 -1

- 家族関係学、生活経営学のほか、福祉、保育学などの関係諸科学の知見に学びながら、それらを鵜呑みにするのではなく、自分自身の生活の場で検証し、考え、活用する力を育てる

## これからの家庭生活・家族の学習の視点と 生徒につけたい力 -2

- 児童生徒に、自らが人生をつくる主体(生活主体)としての自覚を育てる。そのうえで、家族や家庭、社会の問題に関心を持ち、受身のままあきらめるのではなく、現状をクリティカルに分析し、問題を改善、解決する思考力、判断力を育てる
- 社会の一員として人を支え、支えられる自立(自助)と共生(互助)への理解と行動力を身につけさせる
  - …市民性(シティズンシップ)を育てる

## 家庭科教育から生活科学への提言

- 実証分析科学(empirical analytic science)に基づくパラダイムから



家庭生活に科学的な知識や専門的技能を応用し、技術的な問題解決や家庭運営技能を重視

- 批判科学(critical science)に基づくパラダイムへ

民主的な家族およびコミュニティにおいて実践的な問題に取り組むための批判的思考力や社会的行動力を重視

参考: マジョリーブラウン、ベアトリス・パオルッチによる家政学パラダイム転換(1979 家政学・定稿)

# 食生活

千葉大学 石井克枝

## 1. 現代社会の変化と子どもの食生活

食品表示の偽装や冷凍餃子の中毒などで食の安全性が問われ、食料自給率が40%を切り、輸入食品が増加し、食べものの旬がわからなくなり、加工食品の加工過程が見えず、加工食品の原料がわからないなど、食べものに対する認識が薄れてきている。一方で、さまざまな食品が開発され、健康志向の現代において、「身体にいい」ものについての食情報が巷にあふれている。

そのような中で、過食、過度の痩身志向のダイエット、極端な偏食、朝食の欠食、食事代わりに菓子を食べたり、食事への関心が薄れ、食事が生活のリズムを作ることが実感できない子どもも少なからず現れてきた。

食育基本法（2005年7月） 前文

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。

## 2. 食育と家庭科の位置と役割

学校における食育の充実：「食に関する指導」は学校全体で取り組むとされ、家庭科、給食指導、保健体育、社会科、理科、学活、総合的な学習の時間などで関連して扱われる。

また、2005年4月より「栄養教諭」新設され、栄養教諭は栄養士の資格を持ち、学校給食を作り、管理することに加えて、「食に関する指導」に関わる。

食育推進のなかで、「家庭科」における「食生活」教育はその中心になる。すなわち、家庭科の「食生活」は学校全体の食に関する指導と有機的にリンクする配慮が必要となる。

## 3. 食の科学の到達点と家庭科の「食生活」教育

現代の食生活では、食材料の生産、加工、流通においてさまざまな研究成果のもとに大きく変化している。さまざまな食品を見極める目や確かめられる味覚をもち、自分自身が家族の一員として食生活を主体的に営む力をつけ、日本の食文化を継承、発展させる力をつけたい。

小学校：日常の食事と調理の基礎（食事の役割 栄養を考えた食事 調理の基礎）

中学校：食生活と自立（中学生の食生活と栄養 日常食の献立と食品の選び方 日常食の調理と地域の食文化）

高等学校：食生活の管理と健康 ライフステージごとの栄養の特徴

（現学指）家族の献立 基礎的な調理技術の習得

家族の栄養と食事 食品と調理 食生活の安全と調理

「子どもたちに生活科学を  
一家庭科の魅力と可能性」

「食生活」

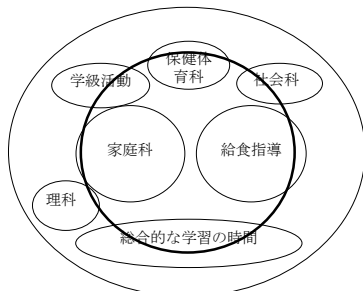
2008.7.5 千葉大学  
石井克枝

現代の食生活の課題  
食育基本法(2005年7月制定)

食育の推進

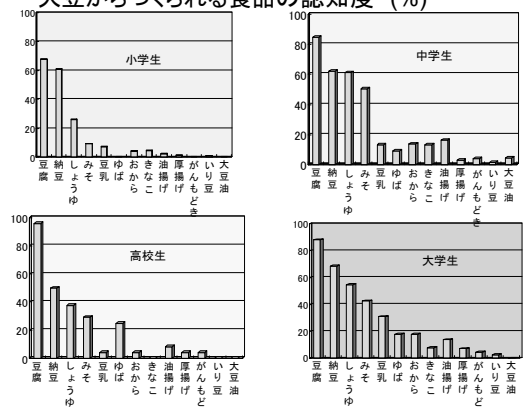
- 栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、
- 新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、
- 「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、
- 人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。

学校における食育の推進

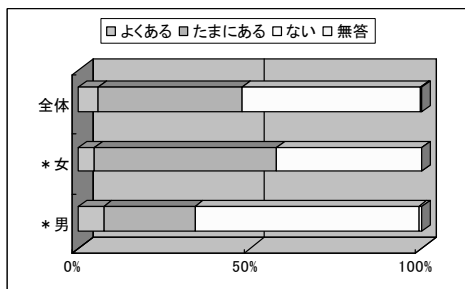


家庭科と給食指導を中心とする

大豆からつくられる食品の認知度 (%)

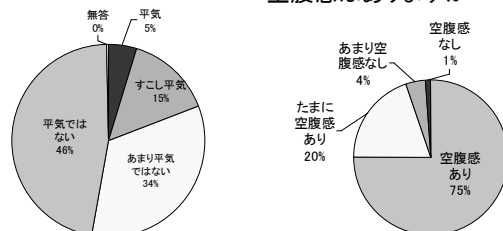


食事への関心はありますか 2003年大学生  
食事代わりに菓子を食べる



\*, p<0.05

食事への関心 2003年大学生  
菓子があれば食事をしなくても平気ですか  
空腹感はありませんか

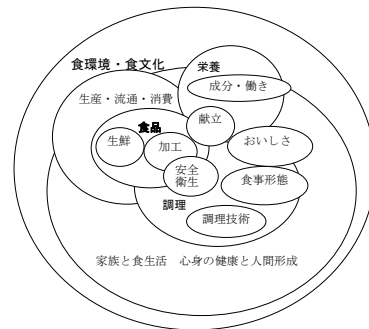


お菓子を食事代わりにすることは特別なことではない。  
空腹を感じない人・食事への関心が少ない人がいる。

## 食事に関心がない人の食生活

- 食事らしいものを食べるのは2~3日に1度
- 普段は簡単に食べられるもの
- 食事をするのは誰かに誘われた時が多い

## 食生活を科学する



## おいしさに気づく



赤いイチゴの香り:  
一番甘い  
黄色のレモンの香り:  
一番酸っぱい

- 色と香りで甘味の感じ方は変化する
- 糖分同じ
- テクスチャーで感じるおいしさ



## おいしさを決定する2大要素

- 味
- テクスチャー



### 飯、みそ汁、ほうれん草のゴマ和え、桜餅

- 味 (味覚): 甘味、酸味、塩味、苦味、うま味 (基本味)  
辛味、渋味、まろやかさ、こく
- 香り (嗅覚)
- 外観 (視覚): 色・形
- テクスチャー (口ざわり) (触覚): 硬さ、粘り
- 温度 (触覚)
- 音 (聴覚)

## ゆでる 水媒体 100℃まで



青菜をゆでる:  
緑色はクロロフィル  
加熱時間が長いと退色  
酸にも弱く、黄色になる。

高温を保つ工夫  
沸騰した湯にいれ、たくさんの湯でゆでる。  
加熱時間は?  
加熱後熱をとる工夫  
水に入れる。加熱をとめる。あくを取る。あく:シュウ酸

## 炒める 油媒体 100℃以上



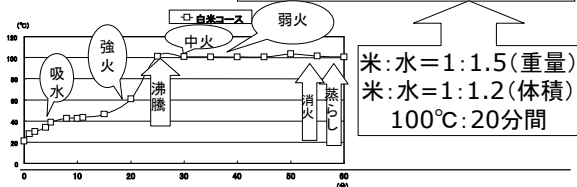
高温:短時間  
野菜の色鮮やかに

油の量:材料の7%~10%  
加熱時間:2分程度  
加熱温度:150℃

煮る:炊飯 あなたのこだわりは？



米から飯へ  
加えた水はすべて米の中に吸収され、米粒中のデンプンを糊化する



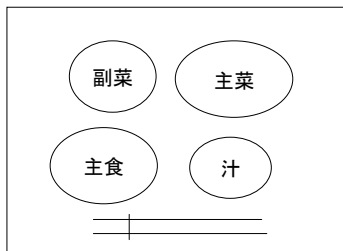
煮る:汁 みそ汁、すまし汁



塩味  
0.8%

種類	成分	使用濃度	つくり方
煮干	イノシン酸ナトリウム	3~5%	水に入れる 10~15分沸騰
かつお節	イノシン酸ナトリウム	2~4%	沸騰したところに入れる すぐ火を止める
昆布	グルタミン酸ナトリウム	2~4%	水に入れる 沸騰前に取る

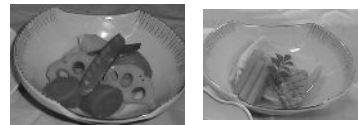
食事構成  
小学校と中学校での課題は？



- 米飯とみそ汁
- (主食と汁)
- (野菜、いも、卵)
- ゆでる、炒める

魚、肉、野菜、いも、卵  
「煮る」「焼く」「炒める」  
(主菜と副菜)

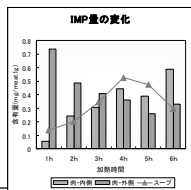
煮る 調味料とともに加熱  
柔らかくすること、味をつけること



煮しめ: 煮る時間内に 煮汁が材料に吸収される。

煮汁の量: 材料の1/3~1/2  
調味: 塩味、材料の1.2%、砂糖、材料の3%  
加熱時間: 15分~20分

煮る:スープ :肉からとるスープストック  
イノシン酸ナトリウム



肉からとるスープ  
鶏ガラからとるスープ

あくを取るタイミング  
微沸騰の火加減

蒸す 蒸気の熱を利用  
蒸気(気体)→水(液体)




卵: 凝固温度が72°C  
90°C以上になると「す」  
がたつ  
85°Cが適温

もち米: うるち米より粘りが  
強く、吸水量が多い  
100°Cで加熱  
米のデンプンの糊化


### 焼く

直火 間接焼き(フライパンなど)



魚一尾:加熱時間12分が目安  
魚の切り身:加熱時間8分が目安

### 揚げる 油の温度150℃~180℃



油と水が交代する

てんぷらの衣は約40%の水分が油と交代する。

衣の条件:冷たい水かき混ぜない、放置しない(ねかせない)

小麦粉のグルテンが関与

油の切れをよくするには?  
170~180℃の時に油から取り出す。  
油は高温で粘性が小さい。  
材料への付着量が少ない。

### シフォンケーキの特徴


**【外観】**

- 柔らかくしっとりしている
- 大きく膨化している

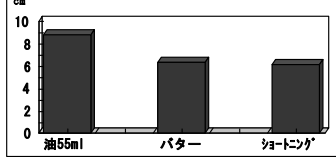
**【材料】**

卵白145g 卵黄55g  
砂糖60g  
小麦粉70g  
油脂55ml  
牛乳65ml

- 卵白、油脂が多い
- 小麦粉は少ない
- 油脂は液状油脂(サラダ油)に限る



#### 高さ

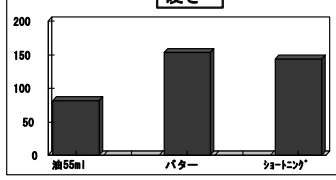


材料	高さ (cm)
油55ml	8.9
バター	6.4
ショートニング	6.2

サラダ油の方が高い

サラダ油 8.9cm  
バター 6.4cm  
ショートニング 6.2cm

#### 硬さ

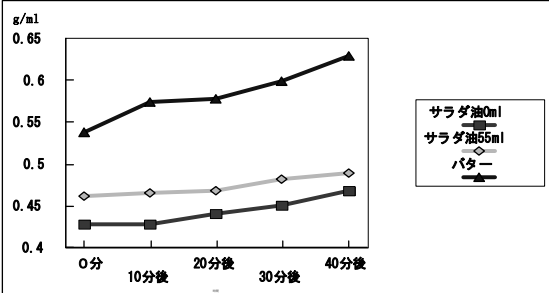


材料	硬さ (g)
油55ml	81.5
バター	153.4
ショートニング	143.9

バター、ショートニングの方が硬い

サラダ油 81.5g  
バター 153.4g  
ショートニング 143.9g

### シフォンケーキ生地重量の時間経過に伴う変化 (0分 10分 20分 30分)

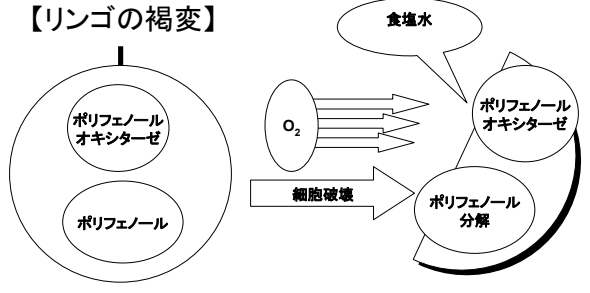


時間	サラダ油0ml (g/ml)	サラダ油55ml (g/ml)	バター (g/ml)
0分	0.46	0.42	0.54
10分後	0.47	0.43	0.57
20分後	0.48	0.44	0.58
30分後	0.49	0.45	0.60
40分後	0.50	0.46	0.63

サラダ油の生地は比重が小さく、バターの生地は大きい

### リンゴの浸漬 褐変およびビタミンCの変化

#### 【リンゴの褐変】



食塩水

ポリフェノールオキシターゼ

ポリフェノール

O<sub>2</sub>

細胞破壊

ポリフェノールオキシターゼ

ポリフェノール分解

### <放置1時間後>

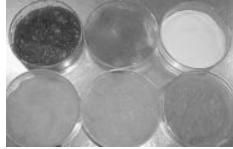
### <放置5時間後>

浸漬なし 水(0%) 白紙



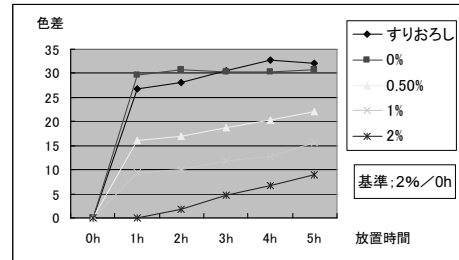
2% 1% 0.5%  
食塩水 食塩水 食塩水

浸漬なし 水(0%) 白紙



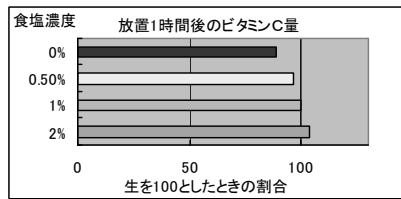
2% 1% 0.5%  
食塩水 食塩水 食塩水

### 食塩濃度は褐変に影響するの？



⇒食塩の濃度が高いほど褐変を抑制する

### 食塩濃度はビタミンCに影響するの？



⇒水のみよりも食塩水に浸漬した方が比較的ビタミンCの損失が少ない。

### 食生活を科学する

- 生活の営みを科学的にみる
- 単なる知識ではなく生活を創造する力
- 生活の質的向上と社会の問題とのかかわり

# 衣生活

実践女子大学 高部啓子

家庭科は他教科での学びを総合し、それらが実生活の場でどのように役立っているか、あるいは役立つかを体験的に確認させ、子どもたちの生きる力を育む教科と考えます。家庭での教育力が低下している現在、学校教育の場で家庭科の果たす役割の重要性を訴えます。一方、今回の学習指導要領の改訂で、小学校・中学校が同じ4つの分野に分けられ、衣生活と住生活が同じ分野に位置づけられました。形式にとらわれることなく子どもたちが理解しやすいように内容を組み立てるべきとの考えからこの分類には疑問を感じます。本シンポジウムでは「衣生活に生活科学の視点を」の観点から、私見を述べさせていただきます。

## 1. 衣生活の科学

衣生活とは衣服の取得、着用（使用）、維持管理、廃棄に至る一連の消費行動を指すと考えられ、これらの行動を子どもたちが自立して行えるように教育することが衣生活分野の大きな目標です。その際、知識を与えることはもちろんのこと、子どもたちから何故？を引き出し、その答えを子どもたちが、知識の応用から考えるだけでなく体験的に試行錯誤を繰り返して回答を引き出せる仕組みが大切です。考え、試行錯誤することが知識を定着させ、創造力を養い、応用へと発展させる能力を芽生えさせると思います。またこれらの行動は有機的に関連し合い、「生活の知恵」的行動が経験的に蓄積されています。この仕組みづくりや生活の知恵的行動の裏付けに生活科学の各領域の成果を大いに活用することで、実生活における科学的視点の涵養やさらなる科学への興味関心を増進させることができます。

## 2. ものづくりの大切さ

糸と針と布を用いたものづくり、これは人々の心を癒し、和をつくり、創造力をかき立てます。また完成する喜びを与え、手指の巧緻性を養い、脳を発達させる効果も看過できません。最近の子どもたちはものづくりあげる経験が乏しいと思います。ものづくりには、創造力、忍耐力、先を見通す力、手指の巧緻性などの基本的能力が必要です。またものづくりを経験することで全体的なプロセスを理解し、主体性や自己コントロール力を育むことができます。達成感や自己肯定感を高め生きる力を育みます。私たちは、細いほそい頼りない繊維が、撚り合わせることで丈夫な糸にすることができ、さらに糸を織ったり編んだりして布にすることで他の素材にはないしなやかさと丈夫さを持った衣服素材を得てきました。また染織や刺繍など布を飾る技術を開発し、豊かな感性を磨いてきました。生活を豊かにする技能として、感性や創造力を磨き、忍耐力や先を見通す力の育成の場として家庭科の中で糸と針と布を用いたものづくりを重視していただきたいと願います。このような技能は小さいうちから携わることで身につくものと考えます。

## 3. 文化の継承

生活することは日々文化を形成していることと考えます。文化は時代や地域によっても異なります。日本にはこれまでに積み上げてきた衣に関わるすばらしい伝統文化や現代の衣服文化があります。衣服の着用、様式、素材、規範、美意識、染織技術、衣服製作技術等日本人の心が込められています。衣に関わる伝統文化を理解し継承していくことは日本人としてのアイデンティティを育成することにもなると思います。

## 衣生活

実践女子大学  
高部啓子

## 家庭科は「生きる力」を育む教科

- 各教科で得た知識を実際の生活の場で応用し、総合し、確認して生きる力に変える



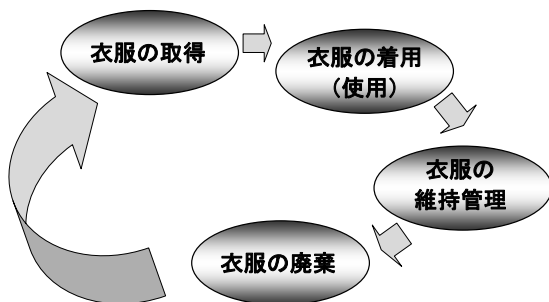
もっと重視されるべき教科

## 衣生活と住生活は似て非なるもの

- 衣服 個を対象とし、個が使用  
共用しないもの
- 住居 子どもから大人まで複数で使用  
共用するもの  
キャパシティが大きくなければならない  
ユニバーサルであるべきもの

## 1. 衣生活の科学

## 衣生活



## 1.1 着る(衣服の着用)

- なぜ衣服を着る？
- どんな衣服をいつ、だれが、どこで、どのように着る？



## なぜ衣服を着る？

- 体を清潔に保つ
- 暑さ寒さから身を守る
- 危険から身を守る
- おしゃれをする
- 自分をよりよく見せる
- 自信をつける
- 気持ちを表す
- 仲間意識を高める
- 仕事をしやすくする
- リラックスする
- 自分らしさを表す
- 自分を可愛く見せる
- 気分転換する
- 状況に合わせる
- 地位を表す
- 扮装する

## 装飾・慎み・保護と効用

- ① 装飾  
自己の拡張, 性的魅力の拡大, 地位の表示
- ② 慎み  
学習された行動としての身体の羞恥  
服装の社会規範  
(文化・時代・状況により異なる)
- ③ 保護と効用  
身体的保護, 心理的保護

## どんな衣服をどのように着る？

- 体を清潔に保つためには？

人のからだ 新陳代謝, 不感蒸散する  
吸湿性, 吸水性のよい素材は？  
ポリエステルは？  
どんな衣服？ 下着着用の必要性

- 暑さ寒さから身を守る

寒いときどのように衣服を着ている？

暑いときどのように衣服を着ている？

温かく着るには？ 空気を着る

涼しく着るには？ 暑い空気を逃がす

衣服の形は？

衣服の素材は？

衣服が覆う体の面積は？

- おしゃれをする

なぜおしゃれをするのか？

自分を美しく見せる

心の満足を得る, 優越感に浸る,

心を安らげる(ファッションセラピー)

どうするとおしゃれができるのか？

センスを磨く

デザインの基礎理論を当てはめる

流行を上手に取り入れる

他者の衣服をよく観察する

## 衣服の人の心へのはたらき

- 衣服はN.V.C → 情報を発信

アイデンティティ, 人格,

態度, 感情や情動,

価値, 状況的意味

- 衣服は外見を決める

→ 第一印象に影響

→ 自己表現, 印象操作

- 衣服は身体像に影響する
  - ポジティブ → 自己高揚 → 自尊心の強化
  - ネガティブ → 自己防衛 → 自尊心の安定
- 衣服は社会の秩序にも貢献
  - 社会的規範としての着装規範
- 衣服は人の行動に影響する

## 1.2 衣服の維持管理

- 手入れはなぜ必要なの？
  - 汚れを取る
  - 衣服を長持ちさせるため
  - 衣服を清潔に保持するため
  - 傷んだところを補修する

### なぜ汚れを取るの？

汚れがついているとどうなるの？  
 どんな汚れがあるの？

- 着用中の汚れ
- からだから分泌される汚れ
- 水に溶けやすい汚れ
- 油汚れ
- など

どんな素材が汚れやすい？

### 汚れを取るには？

- 洗濯の必要
  - どうしたら洗濯できるか？
  - 洗濯はいつもだれがしているか？
  - どんな方法で洗濯しているか？
  - どんな洗剤を使っているか？
  - どんな洗剤が市販されているか？
  - 洗剤と水と洗濯物の関係は？
  - 水の温度と汚れの落ち具合は？

- 汚れが落ちるメカニズムは？
- 洗濯機の種類は？
- 商業洗濯とは？
- どんな衣服を商業洗濯に出すか？
  - 素材・衣服の構造は？
- 洗剤は環境に影響するか？
- 漂白とは何か？
- 糊づけは何のためにするか？

### 補修とは？

- 衣服のどんな部分が傷みやすいか？
- どんな傷みがあるか？
  - 裾や股上がほつれる
  - ボタンが取れる
  - ファスナーが壊れる
  - すり切れる
- サイズを直す

### 1.3 衣服の生産

- 家庭内で家族の衣服をつくる自家生産方式
- ↓
- 専門家による注文仕立て方式
- ↓
- 大量生産を可能にする工業生産方式
- ↓
- 個別対応の工業生産  
(マスカスタマイゼーション)

### 衣服の取得

- 購入
  - リサイクル(古着)
  - 贈りもの
  - 製作
  - リフォーム
- 工業製品としての衣服
- ↓
- 購入に必要な情報

### 購入に必要な知識

- 色・柄・デザイン
  - 似合う・似合わない
  - 素材の性質
  - 衣服サイズ
  - 着心地
  - 取り扱いのしやすさ
  - 丈夫さ・形態安定性
  - 価格の妥当性
- ファッション性・審美性
- 機能性
- 経済性

何気ない日常生活の事柄を取り上げる

はっと気づかせる

知識や技能が定着し、生きる力に変わる

既製服情報  
サイズ・素材・取り扱い  
衣服の機能性  
衣服のファッション性  
経済性

衣服の種類と働き  
衣服の着方  
衣服の素材  
衣服の形・構造

衣服の取得

衣服の着用  
(使用)

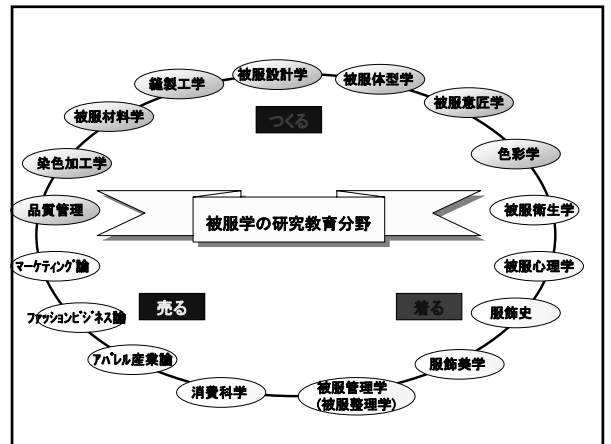
衣生活

衣服の  
維持管理

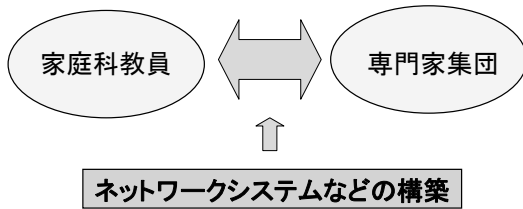
廃棄の判断  
衣服計画

衣服の廃棄

衣服の洗濯  
環境との関わり  
衣服の手入れ・補修  
衣服の収納



最新の研究成果を家庭科の授業に！



## 2. ものづくりの大切さ

### 糸と針と布を使った ものづくりの大切さ

- 心を癒し和をつくる
- 創造力をかき立てる
- 完成の喜びを与える
- 手指の巧緻性を養い、脳を発達させる
- 忍耐力や集中力を養う
- ものづくりのプロセスを理解する
- 先を見通す力がつく



### 布の魅力

- しなやかで体に沿わせられる
- 丈夫である
- 保温効果がある
- 何度も洗うことができる
- 衝撃など外界から身を守ることができる
- 染めることができる
- 美、威厳を表せる

### 手先を使うこと

- 大脳を大いに使うこと
- 日々の生活で指を使う作業が脳を育てるのに大きな役割を果たす
- 折り紙、編み物、縫い物などは特に脳全体を活動させる
- 子どもの脳の発達により影響
- 老人の呆け防止に効果

## 布を使ったものづくり

- 布に手を触れ、ものづくりを経験するから新しい発想や技法の開発が可能
- 培われた技術から科学技術が進歩する
- 心の慰めや安らぎを与える
- 伝統文化の継承
- コミュニケーション手段
- 産業技術開発の基礎

## 家庭科における 布と糸と針をつかったものづくり

- 生活を豊かにする技能を身につける
- 感性や創造力を研く
- 忍耐力を育む
- 集中力を高める
- 先を見通す力の育成



生きる力を育む

## 3. 文化の継承

## 伝統の衣服文化・現代の衣服文化

- 生活すること → 日々文化を形成すること
- 文化は時代・地域によって変化
- 衣服の 着用 様式  
素材 着用規範  
染織技術 美意識  
衣服製作技術



日本人としてのアイデンティティの育成

# 消費生活

横浜国立大学 西村 隆男

## 1 消費経済生活の変貌

規制緩和による利便と安全への不安  
グローバル化、IT化、情報化による消費生活の変化  
少子高齢化に伴うもの（福祉の商品化）

## 2 金融環境の急変

現金決済の縮小  
消費者信用社会と多重債務問題  
金融の商品化  
リスクマネジメントの重視

## 3 安全安心の生活と消費者庁の創設

食品偽装問題と欠陥商品事故の多発  
リスクコミュニケーションの考え方  
消費者行政の一元化による消費者被害の拡大防止

## 4 消費者教育の推進と消費者市民の育成

中教審答申と消費者教育の推進  
企業CSRと消費者CSR  
企業市民社会に向けて

# 消費生活

西村隆男  
横浜国立大学

## 全体構成

- 1 消費経済生活の変貌
- 2 マネー環境の急変
- 3 安全安心の生活と消費者庁の創設
- 4 消費者教育の推進と消費者市民の育成

## 1 消費経済生活の変貌

### ■ 規制緩和による安全への不安

1985 市場開放アクションプログラム  
輸入農産物の拡大、製品輸入拡大

1990 日米構造協議  
牛肉・オレンジ自由化(91)  
銀行系カードへのリボ解禁(92)  
食品表示の期限表示一本化(95)

### ・グローバル化、IT化による生活の変化

原産地、生産地・加工地の曖昧化  
→トレーサビリティの必要性

インターネットによる購入(Windows95~)や  
カード決済の拡大  
→資金移動の利便性強化

少子高齢化に伴うもの  
福祉の商品化(介護サービスなどの市場拡大)

## 2 マネー環境の急変

### ■ 現金決済の縮小

電子マネーの普及(Edy, Suica, PASMO等)  
2012年には6兆円と予想

### ■ 消費者信用社会と多重債務問題

消費者信用市場78兆円  
多重債務者130万人(自己破産14.8万人)

### ■ 金融の商品化

1997 金融ビッグバン(貯蓄から投資へ)  
「金融商品」の一般化  
金融業界再編の加速化

### ■ リスクマネジメントの重視

安全性・流動性・収益性  
投資型商品とリスク  
保険、年金とリスク

### 3 安全安心の生活と消費者庁の創設

- ・食品偽装問題の多発  
食肉偽装  
表示改ざん
- ・欠陥商品事故の多発  
パロマ瞬間湯沸かし器中毒事故  
こんにやくゼリー窒息事故  
エレベーター事故

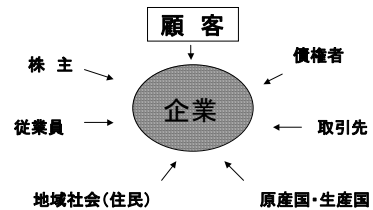
#### ・リスクコミュニケーションの考え方

- 消費者、事業者、行政担当者の中で情報や意見交換をするもの  
(2005 食品安全基本法制定以降)
- ・消費者行政の一元化と被害の拡大防止  
情報収集と発信の一元化  
事故情報等の迅速対応

### 4 消費者教育の推進と消費者市民の育成

- ・中教審答申と消費者教育の推進  
「生きる力」という理念の共有  
→複雑で変化の激しい時代を自立的に生きる  
思考力・判断力・表現力の育成  
→すべての教育活動で育む必要性
- 家庭、技術・家庭の改善  
→食育や消費者教育の推進

#### ・企業CSRと消費者CSR



#### ・消費者のCSR(SRC)

責任ある消費者としての社会参加  
購入・非購入による市場への発信

- ・「消費者市民社会」に向けて  
消費者行政推進基本計画(6/27閣議決定)  
社会倫理問題、多様性、世界情勢、将来世代の  
状況を考慮 →社会発展と改善に積極的に参加  
する社会の実現

#### 新たな家庭科に向けて (消費生活分野の学習から)

消費生活の環境変化



社会の変化をつかむ力、社会との対話力  
消費行動を通じた社会への発信力  
(問題解決能力の育成)